

# ひょうご花緑創造プランの進捗状況

# 1 基本目標の達成状況

	基本目標	達成状況
1	身近な花と緑に満足する人の割合を増やす [プラン策定時:約65% R2中間年実績:78.8%]	○ 目標70% 実績 <b>71.2%</b>
2	市街化区域の緑地割合3割の維持 [プラン策定時:30.6% R2中間年実績:30.3%]	▲ 目標30% 実績 <b>28.8%</b>
3	人口集中地区の緑地割合25%の確保 [プラン策定時:23.9% R2中間年実績:24.6%]	▲ 目標25% 実績 <b>24.8%</b>

- 満足度については、プラン策定時と比較して約6ポイント増加し、目標を達成
- 都市部における緑地割合に係る二つの目標については、未達成
  - ・市街化区域の緑地割合はプラン策定時から1.8ポイント減少し、3割を維持できず
  - ・人口集中地区の緑地割合はプラン策定時から0.9ポイント増加したものの、25%には至らず

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 1 参画と協働による花緑活動の一層の推進

#### 推進施策① コミュニティ形成に繋がる住民団体による緑化活動の推進

##### ●取組内容

自治会や住民団体、企業など県民による緑化活動を推進するため、花苗や緑化資材の提供などの支援や活動機会の提供を行う

##### ●具体的な施策

- 県民総参画の緑化活動の継続的推進（県民まちなみ緑化事業）
- 緑化資材の提供事業

##### ●実績と課題

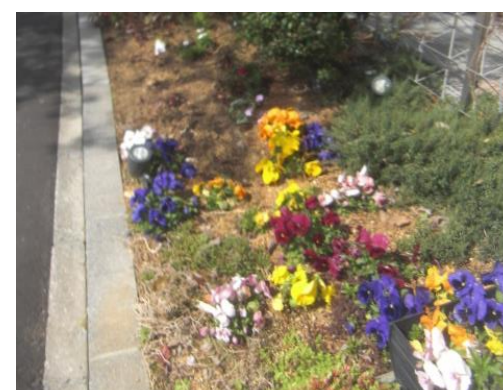
住民団体による県民まちなみ緑化事業の申請件数が860団体（R3～R6計）と目標を達成したが、住民団体の高齢化による活動の継続や若い世代の緑化活動ニーズへの対応が課題となっている。



地域住民による緑化活動



緑地の活用により  
地域の交流が拡大



緑化資材の提供を受けた花壇

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 1 参画と協働による花緑活動の一層の推進

#### 推進施策② ボランティア活動等の緑化活動の推進

##### ●取組内容

緑化活動への参加機会を創出するため、参画と協働の舞台としての公園・緑地の活用、普及啓発や情報提供などの緑化活動への参加機会の増加を図る

##### ●具体的な施策

- 花と緑のまちづくりセンターによる調査研究・普及啓発・活動支援
- 県民総参加の森づくり促進事業（新ひょうごの森づくり）
- 公園を舞台にしたコミュニティ・交流活動

##### ●実績と課題

花と緑のまちづくりセンターによるワークショップなどの普及啓発や緑のパトロール隊による活動等を継続して実施しているが、財源（緑化基金）の安定・継続した確保が課題。森林ボランティア講座により、847人(R6)の森林ボランティアリーダーがいるが、若手リーダーが不足している。



花と緑のまちづくりセンターによるワークショップ



緑のパトロール隊



森林ボランティア講座

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 1 参画と協働による花緑活動の一層の推進

#### 推進施策③ 事業者等による緑化活動機会の創出

##### ●取組内容

企業などによる緑化への参画と協働を推進するため、取組の公表、表彰などによる活動の奨励や活動の持続を促す

##### ●具体的な施策

- ・ 造園等の緑化技術の顕彰（人間サイズのまちづくり賞）
- ・ 企業の森づくり推進事業（新ひょうごの森づくり）
- ・ ひょうごまちなみガーデンショーに合わせた県産花き・造園フェアの開催

##### ●実績と課題

人間サイズのまちづくり賞に事業者の緑化の取組を表彰する「緑化空間部門」を創設。一方、「花緑活動部門」への応募件数が減少傾向にある。

企業との協定締結数は48社(R6)に増加したが、県内企業への制度周知や現地指導者が不足している。



人間サイズのまちづくり賞（花緑活動部門）表彰式と活動の様子



企業の社員家族による植樹活動

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 2 広域及び生活に身近な地域における緑地の創出・保全

#### 推進施策④ 都市における多様な緑化の推進

##### ●取組内容

企業によるまちなか緑化、緑地や都市公園の整備の推進などにより、都市の緑を増やし、ヒートアイランド現象の緩和や都市の低炭素化を進める

##### ●具体的な施策

- 都市の緑地の保全・創出・活用に係る連絡協議会の設置
- 河川敷公園・緑地の芝生化の推進
- 市民緑地制度等の活用によるまちなかの緑地整備の支援
- 大規模な都心緑化の支援、人口集中地区内の緑化の推進、駐車場の芝生化、建築物の屋上・壁面緑化（県民まちなみ緑化事業）
- 環境の保全と創造に関する条例の適用による屋上・壁面及び敷地の義務緑化



屋上緑化（県民まちなみ緑化事業）



大規模な都心緑化の支援（県民まちなみ緑化事業）



環境条例による義務緑化

##### ●実績と課題

県民まちなみ緑化事業において都市緑化の推進に向け複数事業を展開したが、まちなかではまとまった土地が少ないことや一部活用しにくい補助要件となっていること等により、実績は目標に対し低調。環境条例による義務緑化は一定の成果を上げている。

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 2 広域及び生活に身近な地域における緑地の創出・保全

#### 推進施策⑤ 都市地域等の低・未利用地の利用の推進

##### ●取組内容

社会の変化に対応した公園・緑地の整備や質の向上、機能再編や再生を図るとともに、遊休農地等を活用した市民農園等の整備などにより、低未利用地の活用と地域活性化を図る

##### ●具体的な施策

- ・ 六甲山等都市近郊の都市山の活性化に資する取組
- ・ 利用者等のニーズの変化に対応した公園のリノベーション
- ・ ひょうご市民農園整備推進事業等農作業体験の機会提供等



県立都市公園の遊具のリニューアル（明石公園）

##### ●実績と課題

全15の県立都市公園においてリノベーション計画を策定し、計画を基に公園施設の再整備を進めている。市民農園は開設者の高齢化等により廃止される農園があるため減少傾向だが、ニーズの高い都市部では増加。引き続き、既存農園の利用促進と、ニーズに応じた新規開設と機能強化を進める必要がある。



市街化調整区域の市民農園

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 3 自然再生・生物多様性の確保に関する取組の拡大

#### 推進施策⑥ 森林や里山整備の推進

##### ●取組内容

企業による森づくり活動など、多様な担い手による森づくり・里山管理の活動を推進

##### ●具体的な施策

- ・ 都市と里山地域が一体となった地域の魅力づくり（北摂里山博物館の推進）
- ・ 森林管理100%作戦（新ひょうごの森づくり）
- ・ 里山林の再生（新ひょうごの森づくり）
- ・ 企業の森づくり推進事業（新ひょうごの森づくり）【再掲】

##### ●実績と課題

間伐実施面積約15万ha(累計)、里山林再生面積約2万ha(累計)と、目標に向けて着実に進捗が見られ、行政のみならず住民団体参加型の森林整備活動が進んでいる。また、里山資源を活用した市民大学講座の開講や子ども向けの環境学習の実施により里山への理解を深めている。



住民団体による森林整備活動



地域住民による伐採木のチップ化



里山をフィールドとした小中学生対象環境学習（北摂里山博物館HPより）

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 3 自然再生・生物多様性の確保に関する取組の拡大

#### 推進施策⑦ 生物多様性保全活動の推進

##### ●取組内容

生態系ネットワーク（エコロジカルネットワーク）の形成による野生生物の生育環境の確保と持続可能な利用、自然との共生について学ぶ機会の創出に関する取組を推進し、多様な主体による生物多様性の保全活動の活性化や意識の醸成を図る

##### ●具体的な施策

- ・ 生物多様性に配慮した森づくりの普及（尼崎の森中央緑地からの育成苗木の提供）
- ・ 住民団体と共に行う特定外来生物の除去活動
- ・ 尼崎の森の環境学習の場としての提供
- ・ 住民参画型里山林再生事業（新ひょうごの森づくり）
- ・ コウノトリ及び人と自然との調和した環境教育等
- ・ 小中学校における環境教育の推進・環境体験事業・自然学校推進事業
- ・ ひょうごの環境学習の総合的推進事業・ふるさと環境体験推進事業

##### ●実績と課題

尼崎の森中央緑地は環境学習の場として約3万人に利用されるとともに、地域性苗木や草本の育成・提供を行っている。

環境学習・環境教育への支援を行うとともに、表彰制度を創設するなど普及啓発とPRを図っている。一方、指導員人材の不足や活用フィールド・テーマの偏り等が課題。



環境学習の場としての提供  
(尼崎の森中央緑地HPより)



コウノトリの郷公園環境学習  
(コウノトリの郷公園HPより)

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 4 花緑の効果的な活用

#### 推進施策⑧ 地域の子育て力の向上

##### ●取組内容

公園などオープンスペースの緑化による子育て環境の充実や改善を通して、子どもたちがのびのびと育つ環境づくりを進める

##### ●具体的な施策

- ・ 校庭の芝生化（県民まちなみ緑化事業）
- ・ 子どもの生きていく力を養う場となる「子どもの冒険ひろば（プレーパーク）」事業

##### ●実績と課題

校庭の芝生化は子どもたちの外遊びの増加や心身の健全な成長に一定の効果があり、地域の子育て力の向上に寄与している。一方、維持管理の負担が課題となり、目標に対して近年は実績が低調。

子どもの冒険ひろば事業は事業目標を達成したため終了予定(R7)。現在、企業と連携した取組について検討中。



芝生化された園庭



園児による芝生張り



子どもの冒険ひろばの様子

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 4 花緑の効果的な活用

#### 推進施策⑨ 高齢者等の健康増進

##### ●取組内容

心身の健康づくりの推進（健康的なライフスタイル）の場として公園・緑地を活用するとともに、園芸療法に関する取組への資材の提供や技術的支援、ヘルシーパークの整備・活用等の取組を進める

##### ●具体的な施策

- ・ 園芸療法定着促進事業（淡路景観園芸学校）
- ・ 園芸療法士認定制度（淡路景観園芸学校）
- ・ 公園・緑地を心身の健康づくり推進のための場として活用・整備



園芸療法士の育成  
（淡路景観園芸学校HPより）

##### ●実績と課題

園芸療法士を養成・認定し、園芸療法実施支援を行っているが、事業の認知度が低く、実施施設の開拓等が課題となっている。

県立都市公園では各種運動教室や健康づくりイベントを実施し、心身の健康づくりに寄与している。



芝生化した広場でのグランドゴルフ

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 4 花緑の効果的な活用

#### 推進施策⑩ 花緑の担い手の育成

##### ●取組内容

将来の花緑活動の担い手となる子どもたち等を対象とした環境体験、農業を楽しむ機会などを提供

##### ●具体的な施策

- ・ 伝統的花催事の開催支援による園芸文化等の普及促進
- ・ 小中学校における環境教育の推進【再掲】
- ・ 環境体験事業【再掲】 ・ 自然学校推進事業【再掲】
- ・ ひょうごの環境学習の総合的推進事業【再掲】
- ・ ふるさと環境体験推進事業【再掲】
- ・ 楽農学校事業 ・ 楽農交流事業（親子農業体験教室）

##### ●実績と課題

幼児・小中学生～高齢者まで幅広い世代を対象とした環境体験機会を提供している。

兵庫楽農生活センター体験者はコロナ禍により大きく減少し、現在は回復傾向にあるが、引き続き、新たな体験メニューや研修の充実等、集客力の向上に向け、施設全体の魅力アップを図る必要がある。



環境体験事業における里山での活動



キッズガーデニング体験



楽農学校事業（兵庫楽農生活センター）での栽培技術指導

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 4 花緑の効果的な活用

#### 推進施策⑪ 都市と農山村との連携の推進

##### ●取組内容

農地、観光資源等の活用、体験型ツーリズム等への参加機会の創出

##### ●具体的な施策

- 楽農交流事業（親子農業体験教室）【再掲】
- 都市農村交流バス運行支援事業
- ふるさとむら活動支援事業

##### ●実績と課題

楽農生活交流人口等の都市農村交流施設の利用者数）は、体験機会の提供や都市農村交流活動への支援等に取り組み、着実に増加している。引き続き、都市住民と農村地域のマッチング等を推進し、連携強化を図る必要がある。



親子農業体験教室（兵庫楽農生活センターHPより）



都市住民による農村ボランティア活動

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 4 花緑の効果的な活用

#### 推進施策⑫ 良好な景観形成の推進

##### ●取組内容

地域主体による沿道等のまちなかの緑化活動への支援、地域制緑地の指定及び適正な運用等により、地域に愛着が持てる良好な地域景観を支える緑地の保全・創出を推進

##### ●具体的な施策

- ・ のじぎくの里づくり事業 ・ 花のあるみちづくり事業
- ・ 緑条例による整備計画の認定
- ・ 緑のパトロール隊による巡回指導や専門家講習会の活用による住民団体の事情に応じた指導・助言

##### ●実績と課題

緑条例の整備計画の認定や花と緑の専門家講習会の活用など一定の成果が見られる。

一方、のじぎくの里づくり事業による苗の配布数は減少傾向であるなど、地域による景観形成の継続性の確保が課題となっている。



苗から育て、開花したのじぎく



緑条例による整備計画の認定  
(丹波篠山市宇土地区)



花と緑の専門家講習会

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 4 花緑の効果的な活用

#### 推進施策⑬ 地域の元気づくり

##### ●取組内容

地域の歴史や芸術文化を楽しみ学ぶ場として公園・緑地を活用するとともに、地域（商店街など）での自主的な緑化やオープンガーデンの実施への支援、団体間での交流機会となるイベント等の開催により、にぎわいのある元気な地域づくりを図る

##### ●具体的な施策

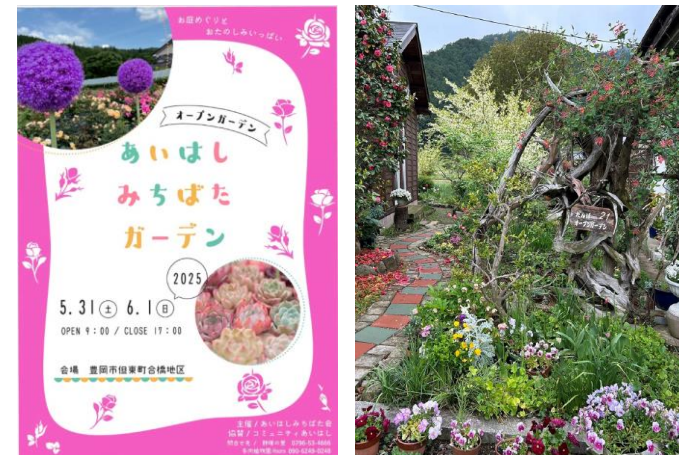
- ・ ポスト花みどりフェアなど花と緑の祭典の開催
- ・ オープンガーデン普及支援
- ・ 県立都市公園、森林公園や里山林等のネットワークづくり
- ・ 大規模な都心緑化の支援（県民まちなみ緑化事業）【再掲】
- ・ ひょうごまちなみガーデンショーの広域開催



淡路花博25周年記念花みどりフェア



ひょうごまちなみガーデンショー



県内各地で開催されるオープンガーデン

##### ●実績と課題

ジャパンフローラ2000(淡路花博)から25年が経過し、その先導的な取組が地元にて定着したことから、淡路花博25周年記念花みどりフェアをもって、終了。

オープンガーデンの普及支援が県内各地におけるオープンガーデンの開催・広がりには寄与している。

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 5 花緑による安全・安心の向上

#### 推進施策⑭ 地域防災力の向上

##### ●取組内容

災害時に延焼遮断帯や一時避難場所となるとともに、地域の防災活動の活性化等に資する公園などオープンスペースを確保・活用する。また、これらの防災拠点となる公園の機能の充実を図る

##### ●具体的な施策

- 都市公園等の防災拠点や避難地の維持・活用



避難地・防災拠点の空間  
(尼崎の森中央緑地)

##### ●実績と課題

県地域防災計画で広域防災拠点に位置付けられている県立都市公園の整備が完了(H30)。防災拠点や広域避難地としての役割を担うため防災機能を維持している。また、防災訓練や防災イベントを実施している。



防災拠点としての利用 (三木総合防災公園)

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 5 花緑による安全・安心の向上

#### 推進施策⑮ 防災・減災対策の推進

##### ●取組内容

自然災害の危険性に備え、防災林の整備や多様で健全な森づくりによる安全安心な地域づくりを推進。また、河川流域や市街地内及び近郊の緑地や森林の保全・防疫対策により防災機能を向上させる

##### ●具体的な施策

- ・ 河川敷公園・緑地の芝生化の推進【再掲】
- ・ 都市山防災林整備、里山防災林整備、緊急防災林整備、針葉樹林と広葉樹林の混交整備、野生動物共生林整備、住民参画型森林整備（災害に強い森づくり）
- ・ 中山間地域等直接支払事業 ・ 保安林の指定
- ・ 林地開発許可制度 ・ 六甲山系グリーンベルト整備事業
- ・ 特別緑地保全地区等の緑地保全制度
- ・ 公園・緑地等における総合治水に資する流域対策
- ・ ウメ輪紋病緊急防除等花と緑の防疫対策（花と緑の保全管理）

##### ●実績と課題

「災害に強い森づくり」は目標に向けて着実に取組を継続している。一方、県民の理解醸成を図るため、森林を活用した防災教育の充実が課題。

災害に強い森づくり



（住民参画型森林整備）



（里山防災林整備）



（緊急防災林整備）

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 6 維持管理の推進

#### 維持管理 1 人材育成

##### ●取組内容

緑化事業の実施者を対象とした講習会の実施や維持管理に関わる情報提供により支援。また、地域の花緑活動団体同士による情報交換や人材派遣といった相互支援を促進

##### ●具体的な施策

- 花緑団体中間支援団体に対する支援
- 維持管理ガイドブックの作成 ・ 花と緑の専門家講習会
- 淡路景観園芸学校等と連携した花緑活動を担う人材育成
- 地域の花緑活動のリーダー育成（花緑いっぱい運動推進員設置、推進員研修会・ワークショップ）

##### ●実績と課題

花緑団体中間支援団体に対する支援などの緑化基金事業は、財源の安定・継続した確保が課題。また、淡路景観園芸学校ではまちづくりガーデナーを育成・認定しているが、応募が定員に満たない状況が続いている。維持管理ガイドブックを作成したが、活用方法について検討が必要。



花緑団体中間支援団体による  
土壌改良の指導



まちづくりガーデナーコースの実習  
(淡路景観園芸学校HPより)



維持管理ガイドブック

## 2 推進施策の実施状況と課題

### 6 維持管理の推進

#### 維持管理2 普及啓発（情報の共有）

##### ●取組内容

花緑活動に関する情報を発信し、共有するための情報発信ツールの整備と活用を進める

##### ●具体的な施策

- ・ 花緑の情報共有ホームページ(活動内容の紹介、活動発表の場の提供)
- ・ 花と緑のまちづくりセンターによる調査研究・普及啓発・活動支援【再掲】

##### ●実績と課題

花と緑のまちづくりセンターHP・Instagram・LINEによる情報発信、活動団体情報プラットフォームの運用（R5～）を実施しているが、若い世代を中心とした層へ波及していないため、効果的な普及啓発が必要。

#### 維持管理3 支援

##### ●取組内容

専門家による技術的支援や園芸相談など、活動団体や企業などを支える取組を進める

##### ●具体的な施策

- ・ 維持管理や保全を目的とした樹木医派遣制度（花と緑の専門家バンク）
- ・ 花と緑のまちづくりセンターにおける園芸相談
- ・ 緑のパトロール隊

##### ●実績と課題

花と緑のまちづくりセンターの園芸教室は年間30～50回前後実施するとともに、子どもも参加できる教室を多数開催し、センター利用者は年間18,000～19,000人程度で安定している。一方、相談件数は減少傾向にある。

### 3 推進施策ごとに設定した指標の進捗状況

推進施策	具体的な事業	指標	R1実績	R6実績	目標 (R7)	進捗状況 ※1	
1 参画と協働による花緑活動の一層の推進	県民まちなみ緑化事業	住民団体による緑化活動支援団体数 (第4期計)	817団体※2	860団体※3	800団体	◎	108%
	県民総参加の森づくり促進事業	森林ボランティアリーダー数	905人	847人	1,000人	△	85%
2 広域及び生活に身近な地域における緑地の創出・保全	県民まちなみ緑化事業	人口集中地区における緑化面積 (第4期計)	23.3ha	15.8ha	35.0ha	▲	45%
	ひょうご市民農園整備推進事業等農作業体験機会の提供等	都市における農業体験機会の提供数	353力所	301力所	390力所※4	△	77%
3 自然再生・生物多様性の確保に関する取組の拡大	森林管理100%作戦	間伐実施面積 (累計)	135,804ha	154,002ha	160,500ha	○	96%
	里山林の再生	里山林再生面積 (累計)	18,845ha	21,545ha	21,500ha	◎	100%
4 花緑の効果的な活用	県民まちなみ緑化事業	校庭の芝生化 (第4期計)	93校庭※2	85校庭※3	250校庭	▲	34%
	楽農業学校事業・楽農交流事業 (親子農業体験教室)	兵庫楽農生活センター体験者数 (累計)	2,323千人	2,704千人	2,700千人※4	◎	100%
	ふるさとむら活動支援事業	楽農生活交流人口	1,108万人	1,107万人	1,160万人	○	95%
5 花緑による安全・安心の向上	災害に強い森づくり	「災害に強い森づくり」整備実施面積 (累計)	35,260ha	44,236ha	45,700ha	○	97%
	中山間地域等直接支払事業	中山間地域等直接支払の取組面積 (累計)	5,317ha	5,917ha	5,700ha	◎	104%

※1 進捗状況基準：◎達成 (100%)、○概ね達成 (90%以上100%未満)、△やや下回る (70%以上90%未満)、▲下回る (70%未満) R6実績/目標で算出。

※2 H28～R1の計 ※3 R3～R6の計

※4 R7における目標数値の設定がないため、R2目標数値を参考に記載

## 4 推進施策の評価

### ・ 推進施策の評価として、実績・課題を推進施策ごとにとりまとめ

<p>参画と協働による花緑活動の一層の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民まちなみ緑化事業などにより<b>住民団体の活動を支援した</b>。</li> <li>・ <b>活動継続、技術の継承、担い手不足</b>が大きな課題。</li> <li>・ 社会情勢として企業の環境配慮型の取組への関心は高まっており、<b>支援策の拡充等を図っているもの</b>の、<b>事業の周知や緑化活動に関する指導者不足等</b>が課題。</li> </ul>
<p>広域及び生活に身近な地域における緑地の創出・保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市では、条例に基づく義務緑化や県民まちなみ緑化事業を通じて<b>一定の緑地が創出された</b>。</li> <li>・ 人口集中地区においては、<b>まちなかではまとまった土地が少ないことや一部活用しにくい補助条件となっていること等</b>が要因となり、<b>緑地の量的確保にはつなげていない</b>。</li> <li>・ 県立都市公園ではリノベーション計画を策定し、<b>計画を基に公園施設の再整備を進めている</b>。</li> </ul>
<p>自然再生・生物多様性の確保に関する取組の拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林や里山の資源を活用した環境学習や活性化等のプログラムに関する取組も含めて、<b>県民の参画と協働による森林や里山の保全整備が進んでいる</b>。</li> <li>・ <b>幼児期から小中学校までこどもの年齢層に応じた環境学習・環境教育への支援を行うとともに、表彰制度を創設するなど、普及啓発とPRを図っている</b>。</li> <li>・ <b>指導員人材の不足や活用フィールド・テーマの偏り等</b>が課題となっている</li> </ul>
<p>花緑の効果的な活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>子ども・子育て世代を対象とした花緑の取組は効果の実感度が高い</b>。</li> <li>・ <b>都市農村交流に関する取組は一定成果を上げている</b>。</li> <li>・ <b>事業の認知度向上に向けたPR方策の充実が課題</b>となっている。</li> </ul>
<p>花緑による安全・安心の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害に強い森づくりなど、<b>事業目的に沿った取組を着実に進めているが、認知度が低い</b>。</li> <li>・ 事業効果実感度合いや、県民ニーズを把握した上で、<b>多面的な視点から事業の見直しや拡充、事業やその効果のPR方法等について検討する必要</b>がある。</li> <li>・ 防災拠点に位置付けられている県立都市公園を中心に、<b>防災拠点や広域避難地としての役割を担うため防災機能を維持している</b>。</li> </ul>
<p>維持管理の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 維持管理への<b>支援拡充は一定進めたが、制度が十分に活用されていない</b>。</li> <li>・ 維持管理に関わる<b>人材育成や負担軽減が引き続き課題</b>。</li> </ul>

## 5 次期計画における施策の方向性

・ 緑を取り巻く社会潮流や現行プランの評価を踏まえ、次期計画における施策の方向性を整理

参考

緑を取り巻く社会潮流  
を踏まえた視点

気候変動(異常高温・豪雨)対策

生物多様性保の確保

well-beingの向上

グリーンインフラの推進

人口減少・高齢化への対応

官民連携

環境意識の高まり

- 県民の興味やライフスタイルに応じて**多様な形で花緑に関わる機会を創出し**、花緑の効果を実感しやすい取組を推進
- **花緑の効果や活用例等について情報発信・共有し**、花緑の活用の広がりを図る
- **多様な都市緑化、森林や里山の保全活動、緑による防災・減災の取組は継続**とするともに、**事業効果の周知やニーズに対応した事業見直し**を行うことで事業を推進
- 若者世代も含めた幅広い年齢層や企業など、**多様な主体による活動への支援**を推進
- **企業にとってのインセンティブとなる支援策の展開**を検討し、**企業の資金・技術・人的資源の活用**を図るとともに、**企業との連携**による取組を一層推進
- まとまった土地の活用が難しいまちなかでは、緑の量の確保だけでなく、少ない緑地面積で緑の効果がより大きく得られるよう、**質の高い都市緑化を推進**